
闇の始末屋赤龍（セキロン）と漆黒の闇。

Natu

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

闇の始末屋赤龍セキロンと漆黒の闇。

【コード】

N6900H

【作者名】

N a t u

【あらすじ】

龍崎ミレイ彼女は誰にも言えない「秘密」があった。そう、彼女は日本や海外で名を知られた闇の始末屋赤龍だった。此れは、彼女とそして・・・兄貴分との出会いをつづった物語である。

(前書き)

連載中の「闇から逃亡して来た少女と其れを追う漆黒

の闇。」の番外編見たいなものです。

ミレイの心の心境みたいなものを書かせていただきました。

多分・・・残酷？な文法もあるかもしれませんが。

一応残酷シーンあり？にさせて頂きました。

私の名は、龍崎ミレイ。通称闇の始末屋、赤龍^{セキロン}。

その名の由来は私の左腕にある紅の龍の刺青が由来。

そして、身内は今の所誰も居ない・・・。

只、言えるのは生まれて何かしらの理由で闇に生きそして・・・幾分邪魔になる者は

‘始末してきた’。それも・・・私自身が何も理由が無くて始末する訳でもない。

只、‘依頼’として引き受けて私はその依頼者の依頼を‘遂行’したまで。

まあ・・・自分に高リスクと感じた、依頼は、断るけど・・・。

それ以外は遂行する。

だって・・・。

それ以外私にとって、生きるすべ、だったから。

すべてが、闇、。

だけど・・・。

一度だけ「やばい事」があった。

其れは、香港にいた時。

広州という組織に頼まれた「依頼があつて」その内容は対立する組織の芽を

つぶす事だった。

依頼は成功だけど・・・。

残党が何名か残っていて私は見つかり逃げて・・・。

そして路地裏に隠れボロボロになった体を支え其処で倒れるように座り・・・

自分がまるで、朽ち果てる、ような事を望んでいたかのように・・・。

と同時に其処で、あの男^{キト}と出会った。

銀色の長髪に漆黒のコートに全身を包んで漆黒の帽子を被っていたあの男^{キト}に・・・

最初は私も警戒した。

だけど・・・その男ヒトがあまりにも、似ていたから、雰囲気ヒトが・・・

私の、死んだ実の兄ヒトに・・・。

兄以外の身内は知らない。

だから・・・兄が死んでしまった今私も、孤独ヒト、（ヒトリ）

その男ヒトは最初私にベレッタを突きつけていた。

だけど・・・私が、赤龍ヒトだと知っていた。

そして・・・「お前は此処でくたばるには惜しい奴だ。」と不敵な笑みを浮かべて言われ私を連

れてその路地裏を出た。

その男の名はジン。

私は、「ジン兄さん。」と呼び・・・その男の側に居るようになった・・・。

そして、その出会いから結構時がたった後……

私は、ジン兄さんの側から、逃亡、する事になる。

でも、今でも……ジン兄さんの、兄貴分として慕う気持ち、は変わらない。

其れは、あの時と、同じ……。

私は、闇の人間、いずれ……もしかしたら、再び、闇に戻る、かもしれない。

そして・・・私の中で、闇の声、がする。

オマエハ、シヨセンヤミノニンゲン。

ドンナニ、ネガツテイテモ、ヤミハオマエヲ、ツツミコム、。

オマエハヤミカラケツシテニゲルコトガ、デキナイ。

ソレガ、ヤミニイキルモノノウンメイ。

ソレガ、ヤミニイキルモノノサダメ。

でも・・・。

もうしばらく、この「表の世界」で「楽しませて欲しいな。」と

思う。

私は、赤龍。

闇の始末屋。

闇の始末屋^{セキロン}赤龍と漆黒の闇。完。

(後書き)

初の短編です。

これは主にミレイ自身の気持ちになって・・・

ジンの兄貴様の出会いまでも書かせていただきました。

本来なら闇の始末人にしていたんですが・・・

始末屋の方が何となく良いかな?と思います。

(連載第2作目で始末人を使っているので

其れを区別する為)に変更いたしました。

誤解を招いてしまい申し訳ありません。

もし、評価等ありましたらお手柔らかにお願い致します

す。尚、苦情等は一切お受けしませんので

ご了承ください。

それでは連載小説もどうぞ宜しくお願い致します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6900h/>

闇の始末屋赤龍（セキロン）と漆黒の闇。

2010年10月15日23時48分発行